

科目名	高齢者と社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目 2 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	教養科目「受講生参加科目」	
科目概要	授業内容	「受講生参加科目」であり、グループワークを行う。 ①高齢者人口の絶対的な多さが政治・経済・社会・文化に及ぼすインパクトを押さえる。②高齢社会に「老いる」ことの高齢者にとっての意味や、「誰でもその生き方を模索し、老いや死を迎える」ことを考える。③真の豊かさ、生き甲斐、優しさとは何かを自らの問題として考え、社会人として高齢者を理解し、その社会に寄与することのできる態度を考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者問題を通して日本社会の構造を理解できる。</li> <li>・日本の「高齢社会から超高齢社会へ」の状況について、大学生らしい説明ができる。</li> <li>・高齢者問題が学生にも身近な問題であることの説明ができる。</li> <li>・グループワークによる調査研究・討議・アクション・発表のおもしろさ・有効性を感じ取れること。</li> </ul>
授業計画	(1) イントロダクション—急増する高齢人口・急速に進む人口高齢化 (2) 何が高齢社会化を可能にしたか—高齢社会への道のりとその背景 (3) 高齢社会は豊かな社会か？ 貧しい社会か？ (4) 高齢社会の文化的特徴 —「若さと生の賛美」から「生」の意味を問い直す文化へ (5) 「高齢者」とはどのような人か—「老化」とは・「老い」とは (6) 「私」の行方—認知症高齢者のこころ (7) 社会構造と高齢者 —拡大する健康・経済・社会関係の格差、女性問題としての高齢者問題 (8) 高齢者の生活状況—居住形態・家族関係・経済状況・就労状況等 (9) 高齢者の消費文化の諸相 (10) 女性問題としての高齢者の格差と貧困 (11) グループワークによる高齢者問題の調査研究と発表 (12) // (13) // (14) 高齢者問題の「当事者組織」の活動が社会を動かす (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	毎回、新聞・TVでの高齢者関連のニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	毎回、授業冒頭に前回授業の復習小クイズを行うので、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【参】大井玄『「痴呆老人」は何を見ているか』新潮新書, 2008年。 結城康博『介護—現場からの検証』岩波新書, 2008年。 河島修『高齢者の現代史』明石書店, 2001年	
成績評価方法と基準	<方法> 定期筆記試験75%、①新聞記事切抜提出課題10%、②授業中のグループワーク遂行課題15%。 <基準> 科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	次の3課題の遂行を求める。 ①高齢者に関連する新聞記事を、毎回コメントをつけて提出する。 ②受講生参加科目として、全員が小班に別れてグループワークを行う。 ③定期筆記試験日までに読書レポートを提出していること（提出を試験受験の条件とする）。	